

## I 「広島県地域がん登録」事業はいよいよ収穫期へ

平成14年（2002）10月から開始された広島県地域がん登録事業は10年を経過し、①広島県内で毎年発症する約2万人のがん患者の約95%を把握することができている、②その登録の約90%が病理組織検査でがんの種類、がんの拡がりを確認し、精度の高いものとなっている、③広島県7医療圏で、この登録事業が均一的に行われている という立派な成果を残しました。精度の高いがん登録事業は50～100万人口都市では可能でしょうが、広島県のような280万余の都市では容易にできるものではありません。

広島では昭和44年（1969）に「広島県地域保健対策協議会」が発足し、広島県医師会、広島大学、広島県・市行政の三者が一体となって医療・福祉についての問題解決に努力してきております。がん登録事業はその中の一つですが、がん登録事業に関しては、他の府県には無い「放射線影響研究所」（旧 ABCC の時期も含む）が側面から大きな貢献をしております。

地域がん登録事業は、登録作業の結果として上記のような成果を得たところですが、二つ目の事業として「がん登録実務者に対する研修」があり、登録に必要な「届出票の書き方説明会」を広島会場、呉会場、福山会場で行っております。過去5年間に、23回の研修会、871名の出席者、延416の研修終了証明書発行、延519施設からの出席を頂いており、上記の広島県7医療圏に均一な事業が行われている理由はここにあります。三つ目の事業は、毎年1回のがんに関するシンポジウムであり、著名人の講演、広島県のがん医療状況の説明、ならびに、当日ないし事前質問を受けて県民の質問に答える場の提供をしており、がん対策、がん登録の理解を頂けるようにしております。四つ目は「各年毎のがん集計・解析」—この報告書作成—ですが、この作業とは別に、経年的解析も行っており、女性腫瘍の動向、小児腫瘍の治療機関分布、病期進展傾向からの検診重点疾病の把握など、直ちに広島県の施策に利用できる基礎資料の提供を行っております。五つ目は第1次、第2次の「広島県がん対策推進計画」の作成に関してであります。平成25年度から始まる「第2次広島県がん対策推進計画」作成にはがん登録部会からの資料が随所に利用される結果となりました。

このようにがん登録部会事業は着実に進歩し、完成度の高い成果を得て、導入期からいよいよ収穫期へと大きく展開しつつあります。本事業は今後も広島県が行う医療・福祉施策の根拠となる資料の提供、その成果の評価、さらに新たな施策へと繋がる指針の提供へと展開して参ります。広島県内医療機関のさらなるご協力ならびに広島県民皆様方のご理解とご協力をお願い致します。

平成25年（2013）3月

広島県がん対策推進協議会  
がん登録推進部会長 鎌田 七男